

J-CEF NEWS

no. 12

2017 WINTER

リレーエッセイ

シチズンシップとは自らが社会をつくっているんだという自覚と疑いを持ち、必要であったら変えていく。そのために行動する。

／田中光（桜美林大学 牧田ゼミ選挙プロジェクト）

実践事例紹介

こども・若者とよのなか（社会）をつなぎ、シチズンシップ（主権者意識）を育む活動を通して

／越智大貴（NPO法人 NEXT CONEXION）

新連載「ヨーロッパの動きから考える」

分断社会におけるシチズンシップとは

／両角達平

特集

「シチズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／齋藤実央（教育ファシリテーター）

／片田 孫 朝日（執筆者の所属と肩書き）



シチズンシップとは自らが社会をつくっているんだという自覚と疑いを持ち、必要であつたら変えていく。そのために行動する。



桜美林大学
牧田ゼミ選挙プロジェクト 田中光

桜美林大学リベラルアーツ学群国際関係専攻の田中光です。これまで、ゼミの中で学内を中心に若者の政治関心を高め、投票率向上につなげる活動をしてきました。具体的には選挙管理委員会と協力した模擬選挙や、学生に選挙の重要性や、若者が投票する意味を伝える啓発活動です。それらの活動を通して感じたことをここで記させていただきます。

このプロジェクトに入ったきっかけは、昨年7月にあった参院選挙に向けて勉強したいという思いからだった。18歳以上に選挙権が引き下げられ、生まれて初めての選挙であった。投票日が近づくにつれて私自身の政治に対する関心も高まり、またメディアもSEALDSを中心とする若者の政治参加を盛んに取り上げた。選挙プロジェクトの活動を受けて、選挙に行つたと言ってくれた友達もいて、大いに投票率が上がることに期待した。しかし、投票結果を見ると戦後4番目に低い投

票率にがっかりした。一票の重要性を訴えてきたはずが、結果として自分の一票の小ささを感じてしまった。またこれからの社会を担っていく若者の政治の関心の低さを痛感した。18歳の投票率は比較的高かったものの、同世代の19歳、20代の投票率の低さが顕著であった。なぜあそこまで投票率が開いてしまったのだろうか。そこで昨年盛んに言われた主権者教育に疑問を持った。18歳の高校生に対して主権者教育はあったが、19歳以上の若者に対するアプローチはあったろうか。

そのような時に、今年の11月に町田市生涯学習センター市民企画で行われた「18選挙権主権者教育からシチズンシップ教育へ」に企画から参加できる機会があったのだ。しかし、初めてシチズンシップという言葉を目にした時に、主権者教育と何が違うのか、シチズンって誰なのか。よくわからなかった。小中高とこれまで学生自治という形でシチズンシップを発揮する機

会にありながら、その意味を全く理解していなかった。大衆に流され、形式化した議論。尾崎豊に全く共感できなかったのだ。現代のステレオタイプ化していると言われる若者が多い日本では、私のようなものは少なくないだろう。このことが若者の政治関心が希薄になっていることにも繋がっているのではないだろうか。

そして、シチズンシップとはこれだと！自分なりの答えが出せた時、ルールに順応し、枠にはまった私自身だったことが悔しく感じた。当たり前なのが常に正しいとは限らないということに気づいたのだ。

シチズンシップとはあまりにも抽象的なゆえに、立場によって解釈も異なり、決して正解ではない。また、高校までの教育環境の中でシチズンシップを理解することは難しい。その中でシチズンシップのあり方を一人のシチズンとして考えていきたい。

田中光 (214d0685@s.obirin.ac.jp)